



**【ご挨拶】** 昔から“彼岸の小鳥殺し”と言われていましたが、20日の春分の日には雪が降り、まさにその通りとなりました。3月になり、暖冬で雪が少なかったこともあって、春が早く到来するかと期待しました。しかし、前半は暖かい日があったものの、後半は寒暖差が大きく、天候も不安定でなかなか素直に暖かくなってくれません。昔から“暑さ寒さも彼岸まで”とも言われます。彼岸が過ぎたら、本格的な春を期待したいです。令和5年度も3月末で終わり、4月から6年度が始まります。一つの区切りの時であり、公民館長の職務も3月末で任期を終えます。とりあえず継続して受けるつもりです。新年度もよろしくお願いいたします。

**【沈黙した春、野山の自然を考える】** ほんの10年ほど前は、雪が消えて春が来ると野山の草木が芽吹き多くの野草の花が咲き誇り、花の蜜を吸いに蝶や蜂が飛び交い、樹木の枝先では野鳥が囀りにぎやかでした。人は無論、自然の中の生き物ぜんぶが春の到来を喜んだものです。しかし、この数年は樹木は芽吹いても野草は消え、花が無いから昆虫も来なくなり野鳥の声もあまり聞かなくなりました。「沈黙の春」です。その原因の全てをシカに押しつけるのは可哀想かもしれませんが、でもシカが増えて、野山の草木を食べてしまったからこうなったんです。シカを減らし、また、にぎやかな春が戻って来て欲しいです。



くくり罠にかかった牡ジカ(2024年3月10日)。11月から4ヶ月間の狩猟期間は、3月15日に終了した。次は有害駆除でもっと獲らないと減らない。

## 【春を探そう！みどりを食べよう！】



フキノトウ

春分の日(3月20日)予定していた「里山の春を探そう!みどりを食べよう!」の行事は、残念ながら当日に雪が降る悪天候で中止にしました。そこで、せっかくなので、ここに今の時期に見つかる食べれる野草を幾つか紹介します。まずはフキノトウ、山菜の代表選手でフキの花です。花が終ると葉が出てきます。葉の茎も食べれます。ツクシ、こちらもスギナの花です。頭から孢子を飛ばします。ヨモギ、独特の香りがあり、出た直後の柔らかい葉を草餅などに使います。スイバの葉っぱは生で嚼ると酸っぱい。アサツキは葱の代用として薬味などに使います。これらは、畑や田んぼの畦、道ばたに生えています。一方、水路や川べりにはセリ、クレソンが見つかります。ワサビは水の綺麗な谷川に育ち、昔は久斗山の特産品でした。どこにでも生えていたこれら野草、今や柵で囲った畑や田んぼ周辺しかありません。



ツクシ



ヨモギ



セリ



クレソン



スイバ



アサツキ



ワサビ

**【祝！「久斗山・境子ども会」表彰状授与】**



1月20日に「けんこれん創立70周年記念兵庫県子ども会育成大会」が開催され、「久斗山・境子ども会」が優良単位子ども会として表彰されました。その表彰状の授与式が2月24日に浜坂公民館であり、子ども会のメンバーと保護者らが出席しました。子連協の中村彰文代表より、会長の中村ひなたさんに表彰状が手渡され西村町長らから祝福の挨拶をいただきました。当地区の子ども会の活動が全県で評価された、とても名誉な事です。少人数ですが、これからも地域の事を大切に思い、色んなことを体験し学ぶ活動の励みになればと思います。



**【祝！ご卒業おめでとう】**

3月は卒業式のシーズンです。8日は町内の中学校の卒業式で、当地では中村なつきさんが浜坂中学を卒業しました。21日は小学校で卒業式があり、中村ひなたさんが浜坂東小学校を卒業しました。お二人に、そして保護者の中村さんに心より祝福申し上げます。



**【久斗山すこやかクラブ、総会】**

10日、久斗山すこやかクラブの総会が開催されました。新たに二人の会員の入会があり、今回、役員改選があつて会長に中村寿弘さん、副会長 中村美好さん、会計 田村仁さんが選出されました。新年度からの活動、お世話様ですがよろしくお願いいたします。



**【久斗山区 令和6年度初総会】**

24日、午前9時より久斗山区の令和6年度初総会が開催されました。11項目に及ぶ議案がありましたが、速やかに議事が進行し、比較的短時間で会議を終えることができました。区役員の任期はもう1年ありますが、隣保役が交代になります。お疲れ様でした。



**○令和6年 4月の行事**

- 7日(日) 久斗山区 役員引継ぎ会
- 8日(月) 県立浜坂高校 入学式
- 9日(火) 新温泉町小・中学校 入学式
- 14日(日) 久斗山自然教室「野山の生き物探しと緑を食べる」(9:00~14:00 久斗山地区公民館)
- 21日(日) 「クリーン但馬10万人大作戦」(7:00~8:00 新温泉町全域)



**上山高原山開き・山焼き**

令和6年4月13日(土)

- ◆出発: 8:40 ふるさと館 ※受付8:30までに
- ◆内容: 9:10 開会、上山高原山開き宣言
- 10:00 山焼き作業
- 13:00 昼食
- 13:30 自然観察班・山焼き班
- 15:00 下山
- ◆参加料: 大人 2000円 小学生以下1000円 ※簡単な昼食を用意します。(事前申込の方のみ)
- ◆締切: 4月5日(金)まで ※参加申込: 要
- ◆服装: 防寒着、山歩きの服装(火に強い服装、履物など)
- ◆その他: 天候により変更あり (事前にお問合せ下さい)
- 雨天の場合は延期



ヒメオドリコソウ  
畑の雑草として、畑一面に繁茂することもある。

**今月の野草**  
**ヒメオドリコソウ**

雪が消えた後の畑に、いつの間にかシソに似た葉っぱの草が一面に生えていることがありますが、上の方の葉っぱの付け根に、可愛い薄紫色の花唇のある花をつけます。

明治時代に日本にきた外来種で、今や本家の踊り草より勢力が強い。花には蜜があり、蜜蜂などの昆虫のごちそうです。蜜のある草では無いから、食用になるそうですが、食用には気をつけなければいけません。長い槍や手斧の武器でみんながかればやっつけることもできます。殺した青頭百足は、堅いうに美味でした。

ある日、任んでいる茸村から遠出しました。そこは火山地帯で、地面に幾つも深い割れ目ができ、溶岩が湧き出ている場所でした。料理に使う火はこの溶岩から得るのだと教えてくれました。少し離れた岩場では、地下水が熱せられ、一定の間隔で勢いよく遙か上方まで噴出する間欠泉になっていました。吹き上がった熱湯は、地上にまで達するそうでした。

その日から、与一はずっとある考えが頭から離れなくなり、またあの間欠泉に上手に乗れたら地上に帰ることができるとは、しかし、間欠泉が噴出するのは、沸騰した熱湯です。飛沫を浴びただけで火傷し、浸かるうものなら茹で上がってしまいます。地底の生活は充実しており、地上に未練があるわけでもありません。危険を冒してまで、無理に帰ることもない(つづく)。

**かってに昔話**  
**木の根の穴** 第六話

作、いっこう

それからしばらく、地底国での生活は、与一にとつて初めて体験することばかりで、とても刺激的でした。竈馬の乗り方も地底人から手ほどきを受け、最初は飛跳ねる時に振り落とされたりしていましたが、長い触覚を手綱のように持ち、右に左にと操ることで、上手に乗りこなせるようになりました。地底人と一緒に狩りに行き、大蛇のような巨大な蚯蚓を縛りつけて捕らえたり、地底湖に棲む横海老を捕まえる籠罟を仕掛けたり、銚で目無しの魚を突いたりしました。凶暴な青頭百足には気をつけなければいけません。長い槍や手斧の武器でみんながかればやっつけることもできます。殺した青頭百足は、堅いうに美味でした。

ある日、任んでいる茸村から遠出しました。そこは火山地帯で、地面に幾つも深い割れ目ができ、溶岩が湧き出ている場所でした。料理に使う火はこの溶岩から得るのだと教えてくれました。少し離れた岩場では、地下水が熱せられ、一定の間隔で勢いよく遙か上方まで噴出する間欠泉になっていました。吹き上がった熱湯は、地上にまで達するそうでした。

その日から、与一はずっとある考えが頭から離れなくなり、またあの間欠泉に上手に乗れたら地上に帰ることができるとは、しかし、間欠泉が噴出するのは、沸騰した熱湯です。飛沫を浴びただけで火傷し、浸かるうものなら茹で上がってしまいます。地底の生活は充実しており、地上に未練があるわけでもありません。危険を冒してまで、無理に帰ることもない(つづく)。